

食に関する指導の 評価実施について

～学校向け説明資料～

目 次

1. 概要	1
(1) はじめに	1
(2) 「食に関する指導の評価手法」の位置付け	1
(3) 「食に関する指導の評価手法」の活用イメージ	1
2. 評価規準	2
(1) 評価の枠組み	2
(2) 評価項目	2
3. 評価の測定方法(例)	3
(1) 児童・生徒に対する調査	3
(2) 学校・栄養教諭・教員アンケート	4
4. (各教育委員会記載欄)	5
(1) (各教育委員会記載欄)	5
5. 調査終了後	6
(1) 結果の取りまとめ	6
(2) 結果の活用	7
6. 参考資料	7

1. 概要

(1) はじめに

社会環境が大きく変化し、児童生徒が健全な食生活を実践することが困難な場面が増え、食物アレルギーや偏食等、食に関する健康上の課題が多様化している状況にあつては、児童生徒が食に関する健康上の問題に興味・関心を持ち、課題を自分ごととして捉え、解決していこうとする食の自己管理能力を育むことが重要です。

そのため、児童生徒が食に関する正しい理解や適切な判断力、望ましい食習慣を身に付けることができるよう、学校において食育を更に充実していく必要があります。

文部科学省では、これまでの指導資料において、食に関する指導に関する評価項目例を示してきたところですが、各教育委員会・学校が、学校現場の実態に即したより実践的な評価を行えるよう、実際に評価を行う際に活用しやすいツールとして「食に関する指導の評価手法(以下、食評価手法)」を開発しました。

教育委員会における「食に関する指導」の振興策の検討や、学校現場での食に関する指導の改善など、様々な場面で本食評価手法を御活用ください。

(2) 「食に関する指導の評価手法」の位置付け

- 「食に関する指導」の取組について、文部科学省において統一的な評価ツールとして本食評価手法を作成しました。この食評価手法は、教育委員会と学校が協力の上、主体的な評価活動に活用していただくことを想定しています。
- 本食評価手法は、学校現場における「食に関する指導」を効果的に進めていくためのものであり、児童生徒一人一人の成績評価を行うためのものではありません。

(3) 「食に関する指導の評価手法」の活用イメージ

学校における児童生徒への食に関する指導について、継続的に振り返りと改善を行うためのサイクルを確立することを目的とする。

- 栄養教諭の食に関する指導の効果を「見える化」するためのツールとして活用する。
- 学校現場で、食に関する指導の現状や課題を整理し、今後の指導の充実に向けた検討材料とする。
- 学校現場で、食に関する指導に係る PDCA サイクルに取り組むための基礎資料とする。

例

- ・学校で食に関する指導の全体計画を作成するための、基礎となるエビデンスとして使用する
- ・学校評価における食育の評価指標として活用する
- ・栄養教諭が中心となり、校内における食に関する指導について、年間の実践を振り返るための評価ツールとして活用する
- ・保護者等に対して、食に関する指導の成果を分かりやすく示すデータとして活用する

2. 評価規準

(1) 評価の枠組み

- 評価を実施するに当たり、学習指導要領に示されている各教科の目標や内容に基づいた学習状況の評価する、学習評価の基本的な考え方を踏まえた枠組みとする。具体的には、各教科における観点別学習状況の評価の3観点である「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を軸に評価項目を設定した。なお、「主体的に学習に取り組む態度」については、そのものを測定することは難しいことから、『主体的に学習に取り組む態度』と関連した評価』として位置付けて整理している。
- 食に関する指導の目標については、文部科学省「食に関する指導の手引－第二次改訂版－」をベースとする。特に【食育の視点(6つ)】を評価項目の枠組みとする。

▼枠組みのイメージ

食育の視点 (観点) 学習指導要領	食事の重要性	心身の健康	食品を選択する能力	感謝の心	社会性	食文化
知識・技能						
思考・判断 ・表現						
「主体的に学習に取り組む態度」と関連した評価						

(2) 評価項目

文部科学省教材(小学生用食育教材「たのしい食事つながる食育」(平成28年2月)、中学生用食育教材(令和3年3月))での指導内容を踏まえて、食育の視点に対応した評価項目を以下のように定めた。

食育の視点	対応する評価項目 <小学校>	対応する評価項目 <中学校>
【食事の重要性】	・ 朝食の大切さ、必要性	・ 食事と栄養補給 ・ 朝食の大切さ
【心身の健康】	・ 3つの食品群 ・ 五大栄養素、栄養バランス ・ 食事と健康	・ 体づくり ・ 必要な心身の健康 ・ 栄養バランス、栄養素 ・ 食事と健康
【食品を選択する能力】	・ 食品ロス ・ 食品衛生	・ 食品ロス ・ 食品衛生
【感謝の心】	・ 感謝の心(行動)	・ 感謝の心(行動)
【社会性】	・ 食事マナー	・ 食事マナー
【食文化】	・ 日本の食文化 ・ 行事食への関心	・ 世界の食文化 ・ 日本の食文化 ・ 世界の食事情

◎小学生用:文部科学省食育教材「たのしい食事つながる食育」(平成28年2月)

◎中学生用:文部科学省食育教材(令和3年3月)及び(令和6年度改訂版)

3. 評価の測定方法(例)

(1) 児童・生徒に対する調査

以下を実施し、食育の視点ごとの達成状況を把握する。

対象 小学校第6学年、中学校第3学年

方法 Web アンケート形式

-担任等の教員が立会いのもと、教室等において一斉に実施する(朝の会、学級活動、HR 等を利用)

-回答に当たっては、教科書や Web サイト等の資料を見ずに行うものとする

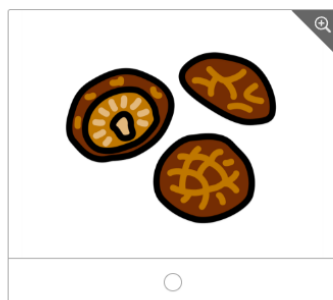
内容 ①「知識・技能」、「思考・判断・表現」に関する試験調査
②『「主体的に学習に取り組む態度」と関連した評価』に関する質問紙調査

調査問題(アンケート)では、上記①と②を一体的に問うこととする。

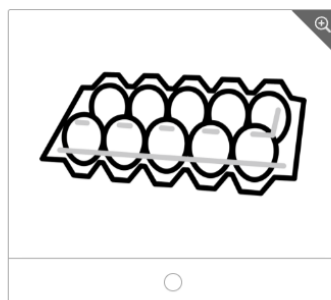
時間 ①②あわせて 30 分(学校の裁量で短くすることは可能)

▼問題例

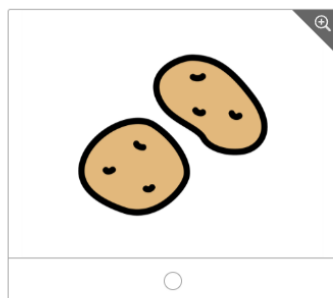
12. 次の中から、必ず冷蔵庫に保存すべきものを選んでください。



①干しシタケ



②卵



③ジャガイモ



④米

(2) 学校・栄養教諭・教員アンケート

栄養教諭等の配置や、教科や給食の時間等における食に関する指導の状況等、児童生徒に対する調査の結果との結び付きが強いと考えられる内容について、それらの状況を把握するとともに、その相関関係等进行分析することで、食に関する指導の改善に結び付けることができる。

このため、学校(管理職)、栄養教諭、教員(担任)を対象とした質問紙調査を児童生徒に対する調査と並行して実施することで、評価結果の活用場面が広がる。

以下を実施し、学校や栄養教諭、及び教員の取組状況を把握する。

学校アンケート/栄養教諭アンケート

対象 管理職、栄養教諭

方法 Web アンケート形式(質問紙調査)

内容

- ・栄養教諭・学校栄養職員の配置状況(学校が把握しているかどうかの確認)
- ・栄養教諭・学校栄養職員の訪問頻度★
- ・食に関する指導実施の有無、指導の頻度
- ・食に関する指導を推進する組織等設置の有無、及び担当者の有無
- ・食に関する指導実施場面(教科・活動等)
- ・食に関する指導にて取り扱っている内容、文部科学省発行の食育用教材の活用の有無★
- ・栄養教諭・学校栄養職員による食に関する指導実施の有無・指導場面(教科・活動等)★
- ・保護者に対する、食に関する指導の情報発信の有無★
- ・食に関する指導を推進する上での課題★

★は、学校/栄養教諭の両方のアンケートの質問。無印は学校アンケートのみ

教員アンケート

対象 児童生徒調査を実施した学級の担任

方法 Web アンケート形式(質問紙調査)

内容

- ・児童生徒アンケートの実施日時及び所要時間
- ・アンケート実施時に児童生徒から出た質問
- ・当該年度における食に関する指導の実施状況(予定を含む)
- ・文部科学省作成の食育教材の活用状況
- ・給食時間や日常の学校生活における、食に関する声かけや指導の状況
- ・食に関する指導を進める上での課題

4.（各教育委員会記載欄）

（1）（各教育委員会記載欄）

タイトルなどを適宜
ご入力ください。

（各教育委員会記載欄）

貴自治体の実施の流れなどを記載してください。

5. 調査終了後

(1) 結果の取りまとめ

(貴自治体の取りまとめ例や説明などを記載してください。)

<以下、イメージ(貴自治体の状況にあわせて変更してください)>

調査実施後、学校に以下の調査結果を提供します。食育の視点、3つの観点のどこが強いのか、どこが苦手かを把握して、今後の食に関する指導の改善に役立ててください。

▼正答率シート

			〇〇県 全体値		〇〇小学校
			回答時間	0:06:10	0:06:07
(観点) 学習指導要領	食育の視点	設問	選択肢	回答割合	回答割合
知識・技能	社会性	1. 給食の時間のときに必要なことで、当てはまらないものを選んでください。	①みんなで準備する	16.39%	11.46%
			②休み時間に向けた準備もする	47.54%	42.04%
			③みんなで楽しく食べる	29.51%	36.31%
			④みんなで片づける	4.92%	8.28%
			無回答	1.64%	1.91%
『主体的に学習に取り組む態度』と関連した評価	感謝の心	2. あなたは、いつも食事の前に「いただきます」を言っていますか。	①必ず言っている	83.61%	80.25%
			②だいたい言っている	6.56%	9.55%
			③あまり言っていない	4.92%	5.10%
			④言っていない	3.28%	4.46%
			無回答	1.64%	0.64%
知識・技能	心身の健康	3. 次の中から、「主に体の調子を整えるものになる食品」を選んでください。	①ごはん	26.23%	12.10%
			②たまご	4.92%	13.38%
			③はくさい	57.38%	64.33%
			④牛乳	9.84%	9.55%
			無回答	1.64%	0.64%
知識・技能	心身の健康	4. 次の中から、いも・かぼちゃ・たまねぎの保存場所として正しいものを選んでください。	①冷暗所	93.44%	92.36%
			②野菜室	1.64%	1.27%
			③冷蔵室	3.28%	3.18%
			④冷凍庫	0.00%	1.27%
			無回答	1.64%	1.91%
思考力・判断力・表現力	心身の健康	5. 給食を食べる前の手洗いの動作について、次のA～Dの正しい順番を、1番から4番まで選んでください。	完全正解	83.61%	80.25%
			不正解	6.56%	9.55%

▼評価マトリクス

	食育の視点	食事の重要性	心身の健康	食品を選択する能力	感謝の心	社会性	食文化
(観点) 学習指導要領	正答率 平均値 (計)	〇〇%	〇〇%	〇〇%	〇〇%	〇〇%	〇〇%
知識・技能	〇〇%		〇〇%	〇〇%		〇〇%	〇〇%
思考・判断・表現	〇〇%	〇〇%	〇〇%	〇〇%			
「主体的に学習に取り組む態度」と関連した評価	〇〇%	〇〇%	〇〇%		〇〇%	〇〇%	

(2) 結果の活用

例えば、以下のような活用方法が想定される。

各学校の課題に応じた食に関する指導の改善に向けた取組を推進

例

①食に関する指導の改善……………

- ・食育の視点別の結果を踏まえた食に関する指導の取組改善・校内研修
- ・給食の時間における指導の充実

②全体計画の改善……………

- ・全体計画の「食育推進の評価」欄のデータのエビデンス取得のために本食評価手法を活用し、成果を数値で表す

③研修や保護者への周知など周辺での活用……………

- ・学年全体、クラス単位での集団の課題・つまづきを特定し、研修等の資料にする
- ・食習慣に関する保護者への働きかけの資料に活用する

6. 参考資料

◎[小学生用食育教材「たのしい食事つながる食育」\(平成28年2月\)](#)

◎[中学生用食育教材\(令和3年3月\)及び\(令和6年度改訂\)](#)

◎[食に関する指導の手引－第二次改訂版－\(平成31年3月\)](#)

文部科学省総合教育政策局健康教育・食育課
令和8年3月